

日本：期待と現実

イザトフ ミリブラギム

Izyatov Miribragim

日本は多くの外国人にとって、夢のような国です。アニメ、マンガ、和食、美しい景色、そして礼儀正しい人々。私も日本に来る前は、そんなイメージを持っていました。テレビやインターネットで見た日本は、とてもきれいで、安全で、親切な国のように見えました。

私が日本に来たのは、専門学校に留学するためでした。来日する前、私は「日本は完璧な国だ」と思っていました。日本人はみんな優しく、社会はとても整っていて、毎日が楽しいはずだと信じていました。しかし、実際に日本で生活してみると、いろいろな現実が見えてきました。

まず一つのギャップは、人間関係の距離感です。日本人はとても礼儀正しくて親切ですが、なかなか本当の友達になるのは難しいと感じます。最初は「みんな笑顔で話してくれ

るし、仲良くなれそう。と思っ ていましたが、
深い会話や本音を話す機会が少なく、壁を
感じることもありました。
二つ目は、外国人に対する無関心です。私
は今、大阪に住んでいます。大阪は国際的な
都市ですが、それでも外国人に対する距離感
を感じることもあります。たとえば、電車で
隣に座られるのを避けられたり、道を歩いて
いるとじっと見られたりすることがありまし
た。もちろん、全ての人々がそうではありません
んが、少し寂しく感じることもあります。
三つ目は、学生としての生活の中で感じた
プレッシャーです。授業についていくこと、
日本語の課題をこなすこと、ゼミやプレゼン
の準備など、毎日がとても忙しいです。勉強
が大変なだけでなく、孤独を感じることもあ
り、精神的に疲れてしまうことがあります。
また、日本語の壁もあります。日常会話は
できるようになっ てきましたが、先生の話す
スピードが速かっ たり、未習語が多かっ たり

して、授業中に全部を理解するのは簡単ではありません。役所での手続きや学校の書類も、まだまだ難しく感じることもあります。言葉の壁は、学生生活の中で大きなハードルの一つです。

しかし、こうした現実を知ることも、大切な経験だと思っています。最初はショックを受けることもあります。現実を理解すること、本当の日本を知ることができません。そして、「日本が嫌いになった」というわけではありません。むしろ、もっと深く日本を知りたい、理解したいと思うようになりました。

私は最近、「日本をもっと良くすることは日本人だけの責任ではない」と思うようになりました。ここに住む外国人も、日本の一員です。文化や考え方の違いを伝えること、困っている人を助けること、マナーを守ること、こうした小さな行動が、日本をより良い国にするための第一歩だと思っています。理想の日本を作るのは、日本人だけでなく、ここに住

おすべこの人の責任です。

もちろん、日本には素晴らしいところもたくさんあります。時間を守る文化、美しい四季、公共交通機関の便利さ、そして食べ物の美味しさです。期待と現実にギャップがあるのは、日本に限ったことではありません。どんな国でも、良いところと悪いところがあります。

大切なのは、その現実を受け入れて、自分にできることを見つけることです。そして、他の文化を理解しようとする気持ちは、これからの多文化共生社会には必要だと思います。違いを恐れるのではなく、違いを受け入れて、共に成長する社会が理想です。

日本に来て、私は多くのことを学びました。夢と現実の違いに気づいたことで、もっと現実的な目で日本を見ることになりました。そして今では、「理想の日本」は自分たち一人一人の努力で作っていくものだと信じています。